

長谷川善雄 長谷川善雄 評論家、フランズ文藝論議家。明治二十一年七月一日兵庫縣生れ（二八六一）。號樵夫庵、西行庵、長谷川樵夫。大正九年上野命館大學卒。次でフレンス公渡りソルボンヌ大學、文學部。フランズ文學、特にポール・クロードルの譯者として知られ、戯曲『マリヤへのお告げ』（昭和八年十一月五日刊）、『東邦の所感』（昭和十一年四月二十日刊）、『五つの大讃歌』（昭和十一年九月十五日刊）、『前兆と寓話』（昭和十四年九月十五日刊）、『女とその影外四篇』（昭和十五年二月十五日刊）、『クロードル隨想』オーランダ繪畫序論』（昭和十五年九月二十日刊）等々、孰れも上野命館出版部から翻譯出版。他に、ジュール・ロマン作『ポオルポヌ外一篇』（昭和十年九月十日）上野命館出版部）がある。

著書に、『有色民族の擡頭と其發展』（大正十四年九月五日寶文館）、『社會移動の過程批判』（大正十五年九月二十日兵庫・柏佐一郎刊、寶文館）、『人及び人間行動の對象』（昭和二年十月二十日上野命館大學出版部）、『女形の研究』（昭和六年六月五日上野命館出版部）、『大詩人ポール・クロードルの研究』（昭和十八年八月二十日京都・上野命館出版部）等。

